

平成27年度の第四錦林小学校の教育

<学校教育目標>

グローバル化時代に

よりよく生きるために、自ら考え行動する子を育てる

～一人ひとりに確かな学力をつける～

「グローバル化時代に」 …子どもたちが成人する頃、グローバル化が進み、他国の人々と共に仕事や生活をする機会が多くなると言われていることを踏まえ

「よりよく生きるために」 … 学ぶ目的を明らかにして（人として豊かに生きるために）

「自ら考え」 … 自主的に・主体的に（他人任せではなく自分の考え・自分の意志で）

「行動する」 … 求めたいのは行動力（念じるだけでなく・願うだけでなく）

<めざす子ども像>

しっかり聞き、しっかり話す子

<めざす教職員像>

～自ら考え行動する子どもを育てる 自ら考え行動する教職員～

- ・ 当たり前のことを当たり前に行える（かっこいいしきん教職員版）
- ・ 日々の授業を充実する
- ・ 創造力と想像力をもち、主体的に学ぶ姿勢
- ・ アイデアと実践力（温度差なく「共通実践」）
- ・ 子どもに向けるあたたかい眼差し
- ・ 誰一人見捨てない覚悟

<めざす学校像>

子どもを育てる具体的な取組がある学校

取組のないところに成果はない

<学校・PTAの統一スローガン>

『すべては四錦の子どものために』

＜今年度の重点＞

* 一人ひとりに確かな学力をつける

○日々の授業を大事にする

○基礎学力をつける

・繰り返して身に付くものは、必ず身に付ける→帯時間、家庭学習の充実

○学習のルールを徹底させる →「カッコいいしきん」

* 外国語活動・英語活動の授業の充実

○時代の流れを見極め、子どもたちの実態に合った「外国語活動・英語活動」の授業をつくる。

* 「しっかり聞き、しっかり話す子」を育てる

○英語活動・外国語活動で大事にしていることを、他の教科・領域でも徹底する。

「しっかり聞く」

内容を理解する

相手を大事にすることでもある →「つながるやさしい子」と関連

想像力をはたらかせ、相手が言おうとすることを聞く力

「しっかり話す」

聞こえる声で言う →「元気な子」「つながるやさしい子」と関連

話したい思い、考えをもつ

◎核となる委員会の取組

☆各委員会でのめざす子ども像

- ・自分の考えをもち、すすんで勉強する子（確かな学力をつくる）＜研究委員会を中心に＞
- ・自分に誇りもち、みんなとつながるやさしい子（豊かな心をつくる）
＜人権教育委員会・生徒指導委員会を中心に＞
- ・心もからだもたくましい元気な子（健やかな体をつくる）＜健康安全委員会を中心に＞

◎授業で育てる

☆授業のユニバーサルデザイン化をはかり「すべての子どもに届く授業」をする

○子どものためになる，また教師のためになる授業等の交換をする

○地域の教育資本を最大限に活用する（特色ある学校づくりをすすめる）

☆人材：教育活動に参画してくれる保護者・地域の人々・大学関係者・学生 等々

→「英語の四錦」を目指す

☆場所：鴨川・吉田山・京都大学総合博物館・京都市動物園 等々

→「生活科」・「総合的な学習の時間」等の学習のフィールドにする

☆幼小中高大連携を進める

○自分と異なる意見や考えも柔軟に受け入れるやわらかい心を育てる

○子どもの声を拾う

○心の通った指導をする

○認めて褒めてやる気にさせる

○授業や集団生活の規律を守らせる

☆やみくもに「守りなさい」ではなく、「なぜ、守らねばならないのか？」を考えさせる

☆6年生が身近な手本として頑張れば、全校が高まる

○子どもは大人のしていることを見て育つ

○保護者の願いや思いを十分に聞く

○全ての教育活動と目指す子ども像との関連を明らかにする

○取組の評価の具体的なものさしを明らかにする

○保護者・地域との連携強化は間断ない情報発信から

○共通理解から共通実践へ